



今回は、麻しん・風しんの予防についてお話しします。

### 麻しん・風しんどんな病気？

「麻しん」は、かかると高熱や発疹などの重い症状以外に、肺炎や脳炎など命を脅かす合併症を引き起こす可能性があります。

学校などで発症すれば、同じ空間にいた免疫のない人は集団感染する可能性が高い病気です。平成10年～13年には、2度の流行があり、県内で

9名の乳幼児が亡くなりました。

「風しん」は妊娠初期の女性がかかると胎児が心臓病や白内障、聴覚障害を持って生まれる可能性がある病気です。また大人がかかると重症化しやすくなります。

麻しん・風しんどちらの病気も感染力が強く、根本的な治療法はありませんが、接種で予防が可能な感染症です。子ども達を麻しん・風しんから守るためにも、接種率を高める必要があります。

# 感染症から大切な命を守るため予防接種を受けましょう！ ～麻しん・風しんの予防接種は早めに受けましょう～

大切な人を守るために  
接種率95%を目指そう！

一人ひとりが予防接種を受けて、麻しん・風しん混合ワクチン(MR)の接種率が95%以上を保つことで流行を防ぐことが出来ると言われています。

麻しん・風しん対策を強化するため、麻しん・風しん混合ワクチン(MR)を2回接種することで、免疫の低下を防ぎます。

うるま市の平成27年度麻しん・風しん第1期(1歳～2歳未満)の接種率は99.5%でした。第2期(小学校就学前1年間の子)の接種率は、90.1%と低い現状です。

その原因の一つとして、毎回2月頃のインフルエンザやおたふくかぜの流行で、期間内に接種を受けられなかった方も多いことがあげられます。

早めの接種で予防しよう！

定期予防接種の期間は無料(公費負担)で接種を受けることができます。期間を過ぎると対象外となり、自費接種で1万円程度の負担が生じますので注意が必要です。

MR定期予防接種対象者

【第1期】1歳～2歳未満

1歳のお誕生日を迎えたら、できるだけ早めに接種しましょう

【第2期】来年度に小学校入学を迎える幼児(平成22年4月2日～平成23年4月1日生まれ)

対象の方には4月に通知しています。まだの方は、夏休みを利用して早めに接種しましょう

その他の予防接種も早めに計画を立て接種できる年齢になったらすぐに受けることが大切です

詳細はうるま市役所 こども健康課(989-0220)までお問い合わせ下さい。

